AMCoR
Asahikawa Medical University Repository http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/

看護研究集録（2014.12）平成２５年度:94.

進行がん患者における臨床倫理検討シートを用いたカンファレンスの教育評価

前田 裕美, 瀬川 澄子

進行がん患者における臨床倫理検討シートを用いたカンファレンスの教育評価

旭川医科大学病院　６階東ナースステーション　　前田　裕美、瀬川　澄子

【目的】

臨床倫理検討シートを用いたベストサポーティブケアの進行がん患者のカンファレンスを行い、スタッフにどのような効果がみられるかを明らかにする。

【方法】

対象者は経験年数２年目以上の看護師３名。事例は大腸がん Stage4 の周術期から術後化学療法で繰り返し入院するベストサポーティブケアの患者２事例。対象者に、カンファレンス後、参加しどのように感じたか、ケアにどのように生かされたかなどの半構成的面接を行った。得られたデータは、逐語録を作成し言葉の意味・類似した内容をコード化し、カテゴリー化を行った。倫理的配慮：対象者に、研究の趣旨とプライバシー保護を文書にて説明し、研究対象病院倫理委員会で承認を得た。

【結果】

カテゴリーは４つ抽出した。《データの整理と可視化による情報の統合は、臨床倫理検討シートを活用し「患者の意向に関する情報が少ないことに気づく」「医学的情報に基づいた情報が多く、偏りがみえる」「家族の意向が見えにくい」であった。《個人史に基づく患者のＱＯＬは、「患者の治療の歴史を知る」「患者の治療の意味を考える」「患者の強みを生かしたケアができる」であった。《参加型学びの場の体験は、カンファレンスで「共に考えるプロセス」「看護の語りの場となる」「患者理解が深まる」であった。

《看護診断・介入を導く学習レディネスの向上は、これまで使用していた NANDA-NIC/NOC での倫理的情報を客観的に捉え「家族への介入を行うために看護診断したい」「ウェルネス診断への気づき」であった。

【考察】

臨床倫理検討シートの活用で、患者や家族の情報を可視化し、情報の偏りに気付いていた。シートを用いたカンファレンスは､患者の発症から現在までの歴史を知り、患者理解が深まる場となっていた。また、患者の強みやその人らしさを生かす関わりについて思いを共有する場は、看護師のアドボケーターとしての意識が高まり、その過程が学びの場となっていた。